

日蓮宗 常栄山 本照寺だより

本照寺だよりも 50号を迎えました

次なる100号へ

■平成14年12月に第一号を発刊してよりこのかた、ほぼ10年を経て50号を迎えることとなりました。

左に第2号を紹介しますが、その拙(つたな)さ、へたさ加減に私自身、驚きます。です



第2号の本照寺だよりです。拙い感じがありません。1号は不明になっております。

が、まあしかたがありませんでした。なにせ、「パーソナル編集長」というソフトを買って作っていたのですが、買ったばかりでそのソフトにも慣れていませんでした(現使用)。

■先ず白黒で、いわゆる割り付け・レイアウトがなされ

てなく、記事、文章は心太(ところてん)状態(順番に並べただけ)です。

■しかし幸い、長らく「聖徒タイムズ」の編集に関わっていただけだったので、割り付けは「お手の物？」です。当時は割り付け用紙に鉛筆、定規、消しゴムで悪戦苦闘。

読者を「読む気」にさせ、興味を持たせるには……割り付けは？ リード文は？ 大見出しは？ 中見出しは？ 小見出しは？ といった具合。

■そんな「お陰」がなければ、「本照寺だより」は存在しなかつたことでしょう。それが今、私自身にとつての趣味状態？

ともあれ、読んでいただけなければただの紙。孤軍奮闘？ 次なる100号を目指します。

第50号
厚木市下古沢133
TEL・046-247-1156
FAX・046-247-1156
振替・0230-7-35749
(加入者名・本照寺)
発行所 本照寺・須藤教裕
携帯090-9151-6438

朝の詩

「花は咲く」 土居義彦 66
胸がジンとすると
97歳の母が何度も
CDを聞いて
「花は咲く」という歌
目を閉じ 首をかしげ
指で拍子をとっている
「わたしは何を
残しただろう」

無言の会話

ここにくるといきなり
涙を浮かべる
母ちゃん 泣くな
立派な子供 六人も
残しているじゃないか
塩谷亜喜雄 73
母が好きだった花を見
てると
傍(そば)にいつも母が
いるような気がする
大好きだった花を見に
わざわざ天空から

いまいぞ

降りて来るのか
今日は石路(つわぶき)
「きれいだね」
「うん」
無言の会話を交わす
松崎俊道 62
どこへ旅するなどの
ゆとりはないが
冬のこの晴れた日に
きよらかな
空気を切って走る

味方

7歳少女無名
どんなときも
さいごまで
いまでも
こうして生きている
実感さえあれば
それで、よし

本照寺へのメール通信は今後以下でお願いいたします。

honshou49@i.softbank.jp



本堂前の五重塔

「身延山へお参り」はいかが？

■本照寺では4月20日〜21日(土日)に、山梨県・身延山・久遠寺へ参拝します。

バスにて一泊二日、ご参加をお待ちします。1万8千円。

立花伸一さん

■昨年の11月19日、厚木レゾナントホテル3F「相模の間」において、本照寺お檀家さんの歌手、立花伸一さんが「立花伸一ベストアルバム」



サイン入りポスターです

思いは現実となる

■皆さんが新車を買った時、例えばその車がクラウンだったとしましょう。クラウンを買う前は、クラウンが視界に入っても目に入らなかつたのに、クラウンを買ったからは「クラウンがいっぱい走ってる」といったように、自然と目に入ってきたすよね。これは私たちの脳が、見たい物しか見ない、だから興味の無い物は見ない、というように、脳が自然とフィルターリング(除外)しているのだそうです。

■同じようにルイボトンのバッグを持つている人は、他人が持っているルイボトンのバッグが目が行きます。逆にルイボトンに全く興味がなく持つていない人にとっては、視界に入ってもルイボトンは見えないのです。人は視界に入っても、自分にとって重要性がなければ見え、認識しないのです(これをスコートマン効果と云います)。

クラウン

ルイボトン

を社員はいくつも引張り出そうとします。逆に、「それなら何とか出来る」と思えば、「かくかくしかじかで出来る」といった理由をいくつも引張りだそうとします。これは、「無理」と思えば無理の理由が視界に入り、「出来る」と思えば出来る理由が視界に入るのです。

■といったように、思いは具現化するもので、日頃、私たちは「やればできる」「やろう」「頑張ろう」「絶対出来る」といった建設的な信念、更には「ありがたい」「お陰さまで」などといった良い信念を思い描く必要があります。これらの言葉は将来、自分の環境に良い結果を引き寄せることとなるのです。

■これは脳科学から言えることのように、脳神経外科医である林 成之医師は次のように言います。

「「無理です」「できません」と思った瞬間に、人間の脳は全体の血流が落ちるんです。脳の機能上、そうなっているのです」と。

■新年号で紹介した、「グチャや悪口は不幸を呼ぶ呪文です。決して口にしてはなりません・ジョセフ・マーフィー」とは、その通りのようですね。



本照寺 檀家様

「ご埋葬」はイシックスにお任せ下さい

埋葬料 10,000円(税込)
清掃・拝石・香炉交換 各別
(お問い合わせ)

0120-011140

□平塚店
〒254-0014 平塚市西之郷2-24-31
TEL 0463-53-1114 FAX 0463-54-0222
□小田原店
〒230-0011 小田原市東2-5-22 本町2丁目1F
TEL 0465-20-1114 FAX 0465-20-1135

霊障と救霊

霊障(れいしよう)と救霊(きゆうれい)……かなり大げさな題名となってしまったが、このたび、聖徒タイムズ編集部員4名によって、表題について座談会をもった。言までもなく編集部員は日蓮宗の僧侶・霊断師であり、さまざまな人生相談を受け、良き道へと導く立場にある。ここでは病院に見離され、重い霊障を抱えた場合も多々ある日蓮大聖人も「ひとえに先業の重罪を今生に消して後生の三悪を脱れん」(佐渡御書)などと、生死や供養についてのご文章を数多く書かれておられるということからしても、そこには自ずと見えてくるものがある。

「この法華経は三途の河にては舟となり、死出の山にては大白牛車となり、冥土にては灯となり、霊山(浄土)へ参る橋なり」(波木井殿御書・日蓮聖人)

霊界の門をのぞく

●今年度の芥川賞受賞作「中陰の花」(玄侑宗久・僧侶・げんゆうそうきゆう)を読んだんだけど、少し禅宗に対する意識が変りましたね。曹洞禅宗は「個」としての霊を認めていない? ようだけど、「中陰の花」では輪廻転生や、中陰や成仏について触れているんだ。

●先日小田急線の、とある踏切から3軒目の家へ供養に行つたんですが、娘さんとその彼女が女性の霊の姿を見て、3日間2階にあがれなくて、1階のソファで寝てたんだ。実は霊の姿を見る3日前に、すぐ近くの踏切で自殺があり、後日談として、自殺者の服装と、2人が見た霊の姿の服装

が一致したんだ。この一例はある程度客観性が高いと思うんだけど、ともあれありがたいことは、法華経とお題目で供養は絶対だつてこと。

●「題目の光無限に至りて即身成仏せしむ。回向の文これより事起るなり」だ。

●客観性ということでは、この一例も高いと思う。ある消防署(10人ほどが常駐)から供養の依頼があり、部屋の壁には署長自らワープロで書かれたA4の紙があり、霊現象が起きた時間から隊員名まで、それこそズラッと。「声を聞いた」「姿を見た」「足を引つておさまったんだが、2年後のお盆にまた始まった。結局2度足を運んだんだけど、相当の複数霊で大変だった。

●「霊也あきらかに聞き、よくこれを思念せられよ」「願わくば久遠ご本仏さま、日蓮大聖人さま、霊也をして寂光の宝刹、霊山浄土へ攝取引導せしめ給えと尔(し)か願う」と言つたように、悟しと慈悲の気持ちですね。よく「払ってください」と言われる方がいますが、方向が逆ですね。

●たしかに「霊也あきらかに聞き」のように、漢文どおりでなく、文章語として語つた方が参詣者も理解ができるわけだから、霊也も然りでしょう。更に創祖の言われた「自身が題目の信仰に徹して、本化の仲間に入り、霊界の座を獲得するとともに、その功德を分ち与えて中有(ちゆうう・中陰)霊の運命を救い、大曼荼羅界(仏の世界)に入れるようにする。その積極的な救霊こそ真に中有の霊を喜ばせる道である」とのお言葉こそ、私たち日蓮宗僧侶のあるべき姿でしょう。

自ら願って生まれてくる私たち

●日蓮宗は法華経や大聖人のご文章に依っているわけだから、先ず、霊魂在りきた。

●創祖暇下も「霊界の門をのぞく」を執筆されているわけだし、大聖人も「所詮成仏得道の大綱を法華経に之を説き」

●日蓮宗の立場は常に明確だから自ずと信仰心も持(たも)ちやすいけど、念仏系はまた違うんじゃないかな。

7割の僧侶が信しない?

●「時宗の僧侶・百人へのアンケート」で7割が存在を信じていないとの統計があったね。確かに念仏系の通夜、葬儀、法事は意味が分りにくいというか、供養しているの? といった感じもするし。

●念仏系は西方極楽浄土への往生が絶対約束されているわけであり、またひとつの目的ともなっているのでしょうか? だから供養をするといった概念がないのでは?

●「仏の願いを生きること。だから念仏者とは祈りの方向性が違いますね。」

●ところでニューパラダイム(新しい科学の枠組み)として精神世界のさまざまな本が出版されてきたけれど、今後高い客観性をもって仏教の後押しとなつてほしいね。

●でも何としても否定論者は

死を習うとは生を全うすること

●「先づ臨終のことを習う」ことだね。生命のあり方が分れば、いかに生きるべきかが分る。死を習うことは、ひるが

●「死を習うとは生を全うすること」

り、精神性に目覚めると言われるね……ともあれ、今ある自分に感謝し、宗教エゴに陥ることなく、普遍価値たる法華経を広めることですね。

編集後記

■上記は13年前の記事ですが、このたび読んでみて、記憶違いがありました。一例は「3軒目」とあったのに、「5軒目」と思いこんでいたり、た。記憶は結構、あてにならないものですね。■時に法事でお話するのですが、霊界へのドアが、仮にあったとします。そしてそのドアにはカギがかかっていたとします。しかし、ありがたいこととして、南無妙法蓮華経のカギでしたら開くので、私の経験として、考えてみてください。通夜、葬儀、法事でもそうですが、先ず、霊界へのドアが開かなければ、供養は届かないのではないのでしょうか? ですが、実は供養にも方法論があるのです。文中にもありますが、その面では日蓮宗は明確です。「真如の大海を渡らんことは、南無妙法蓮華の船にあらざれば叶はず」であつて、また「霊也の手を取り、頭を撫で、体を抱きて霊也を釈迦仏、法華経の浄土へ引導したもう」など、日蓮聖人のお言葉があるのですから、そしてその代表が、「引導文」でしょう。

■また、美輪明宏は言います。「大きなパワーを発揮するのが南無妙法蓮華経です。このお題目はまるでガソリンのようにもあげていきます。お題目をあげていると、不思議な力がお経を泉のようにグーッと湧いてくるのを感じます。法華経をあげる事によって、宇宙からのエネルギーを吸収するのです」と。